

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で「その人らしく」「いきいきと」生活して頂くことをお手伝いし、「その人らしく」をいつまでも・・・を目標にし、日々取り組んでいる	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で理念を共有し、一人ひとりが理念を実践していくために何をしたら良いか考えながら入居者と向き合い、話し合い、共に行動しながら実現に向けて取り組んでいる	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には、地域で暮らし続けることは理解してもらっており、地域の人々へも機会あるごとに理解を深める努力をしている	○ 今後も地域の人々へは、理念を伝えながら理解者や協力者を増やしていきたい
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の人とは気軽に声をかけあい、玄関先での世間話は日常茶飯事になっており、おすそ分けやお茶へのお誘い、お祝い事への出席など日常的なつきあいを大切にしている	○ 今後は入居者個人に限らず、日常的に陽だまり内に気軽に立ち寄ってくれる人を増やしていきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や育成会の行事、高齢者のサロンへも積極的に参加しながら、地域の一員として協力できることを相談し、買物や美容室も地元を利用している	○ 夏祭りの子供神輿の休憩所としてのつながりをきっかけに、地域の子供達との交流を増やしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	○	高齢者の集まりの場として事業者を提供する話をすすめている
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○	今後は参加者の幅を広げ、より多くの意見を取り入れるようにしていきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	○	今後も電話による相談以外にも、協力できることを考えていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	○	個々の必要性については、定期的に話し合っ行ってきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解除をする際は、不安や疑問を残さないように十分な説明を行い、理解し納得して頂けるように努めている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見を第一と考え、日頃の関わりの中で不満や苦情など率直な気持ちが言えるよう努めている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りで日々の暮らしぶりや健康状態、職員の異動などを報告し、入居者に変化があった時はその都度連絡し、家族の訪問時には出納帳の確認や暮らしのアルバムを見てもらいながら近況を話している	○ 家族の希望により職員は名札を付け、名前を覚えてもらい、話をする際により身近に感じて何でも話してもらえるように努めている
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を置き、家族が訪問した際もできるだけ話しかけ意見を聴くようにし、運営推進会議にも毎回家族に出席してもらい、意見を運営に反映させている	○ 不満や苦情が言葉として出なくても、家族の気持ちを確認しながら接していきたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は、職員の意見を聴く機会を設け、管理者も、毎月のミーティングや日々の業務を通して出た意見や提案を取り上げ、職員間で十分議論し運営に反映させている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応ができるようにゆとりのある勤務配置となっており、必要に応じて管理者や職員が駆けつけたり、法人内より応援もしてもらえる体制になっている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、入居者との馴染みの関係が続けられるように職員の異動を必要最小限にし、職員の勤務に対する希望や長期的な予定や不安や不満などの相談に応じ、職員が継続して働けるよう努め、変わる場合でも、入居者へのダメージを最小限にする配慮をしている</p>	
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内での段階に応じた職員育成のための研修を受けることができ、職場内でも定期的に勉強会を行っており、希望があれば外部研修も受けられるように勤務調整を行なっている</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、同業者からの情報収集を積極的に行い地域の同業者とは定期的に意見交換の場を設けており、職員同士の交流にも力を入れている</p>	○ 職員が地域の同業者と交流する機会を、近日中に設ける予定がある
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、規定以上の職員を配置し、可能な限り希望や年休を反映した勤務を実現しており、職員の意見を聴き、ストレス軽減や良好な職場環境作りに取り組んでいる</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、職員の努力や実績、勤務状況を把握し処遇に反映させ、研修会等にも積極的に参加を促し向上心を持って働けるように努めている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に必ず本人と会い、本人の希望や困っていることなどを聴き、不安が少しでも解消できるように努め、ホームの雰囲気わかるように事前の訪問をすすめている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談初期から家族とは十分話をし、入居にいたるまでの思いを受け止め、入居に対する不安や入居後の希望、本人の様子などを聴きながら、家族が何でも話せるような関係作りをしている	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを受け止め、本人と家族の思いに相違がある場合も理解した上で、ホーム入居以外の必要性も考慮し、関係機関と連携しながら支援している	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族には、なるべく事前に訪問してもらいホームの雰囲気に馴染んで頂けるよう働きかけており、訪問出来ない場合には雰囲気がわかるように説明したり、複数の職員が会って顔馴染みになれるように努めている	○
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、介護者としてではなく、生活を共にする者として、喜怒哀楽を分かち合い、お互いが支えあう関係を築きながら、その人らしさを大切にしよう努めている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	○	今後入居者が重度化した場合でも、信頼し合いながら本人のことを考えられるよう、関係を深めていきたい
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	○	馴染みの人がもっと訪問できるように働きかけていきたい
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、その人らしい暮らし方をするための希望を本人と話し合いながら支援し、困難な場合は、本人にとって何が一番かを考えながら支援している	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後に、これまでの暮らし方や生活歴等を出来る限り関係者から得て、記録に残し共有し生活に生かせるようにしている	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの日常の様子や心身の状態、持てる力の情報を職員や医師、看護師らが共有し、総合的に把握している	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、医師や看護師等の意見をふまえてカンファレンスを行い、本人がより良く暮らせるような介護計画を作成している	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度モニタリングを行い、カンファレンスにて介護計画の見直しをし、それ以前にも本人に変化が見られた時には、その都度カンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	○	<p>入居の継続が困難な場合など、法人内の他の施設に移ったりしているが、今後は暮しの継続のためのリハビリや栄養についてなどを学んでいきたい</p>
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	○	<p>まだまだ活用できていない地域資源を、今後も取り入れて行きたい</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	○	<p>権利擁護などについて、今後必要になれば協力を依頼したい</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>実際に具体的になった場合に備えて、今後も話し合いは続けていきたい</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の住み替えに際しては、関係者と事前に十分な話し合いや情報交換を行い、本人ともできる限り会って顔馴染みになり、住み替えがスムーズに行くように努めている</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>尊厳を損なわず親しみのある言葉かけを心がけ個人情報の取り扱いはマニュアルに添って漏洩を防ぎ、日々のやり取りや個人の記録の取り扱いにも十分注意している</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>何事にもまず本人の意思を確認し、その人のわかる力に合わせて説明し、難しい場合でもどこかに本人の意思が反映されるように支援している</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの生活ペースを大切にしながら、その人の性格や力を考慮し、希望を聞きながら一日を楽しく過ごせるように支援している</p>	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望の美容室に行き、希望があれば毛染めを手伝い、洋服も好みのものを着て頂きその人らしいおしゃれができるように支援している</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	自力で食べられなくなったり、食べる行為が理解しにくくなってしまった入居者には、付き添い声掛けをしながら食べることを味わって頂いている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○	毎日の水分量をチェックし、排尿量などにもより気を配りながら排泄の支援をしている
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○	自分から動いたり、意思表示をすることが少なくなった入居者のために、カラオケや散歩を毎週取り入れ、気分転換を図っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	○	家族の協力も幅広く得ながら、今後も個別の外出が増えると思うが、年に数回の全員での外出も継続できるように、協力者を作っていきたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○	日頃からもっと書く機会を増やしていきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及びすべての職員は、身体拘束をしないケアについて正しく理解し実践している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○	安全性を考慮しながら、施錠に代わる手段については、今後も考えていきたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○	起こり得るリスクに関しては、常に考えながら行動する習慣をつけるように努めていきたい
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○	実際に対応できるように、定期的な講習をしていきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	今後は火災の想定だけでなく、風水害時にも備えられるように訓練に取り入れていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについては、日頃から家族と話し合っており、できる限り回避しながらも、日常生活の中で起こり得ることについては、理解し納得して頂いている	○  入居者の変化に応じて、リスクについては今後も家族と密に話し合っていきたい
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康観察や排泄や入浴時、日々の行動などから体調変化に気付いた際には、職員間で情報を共有するとともに、毎週訪れる医師や看護師に申し送り、緊急時は法人内の医師に指示をもらったり、必要に応じて医療機関に受診している	
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりの薬の情報を共有し理解しており、服薬についても袋の工夫や二重の確認をし確実に服薬できるよう支援し、状態の変化に応じて医師と相談しながらも、なるべく減らしていけるように努めている	
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、繊維質の多い食事や乳製品をメニューに取り入れ、水分摂取や適度な運動に心がけているが、それでも便秘がちな場合は、医師と相談し必要に応じて服薬などの支援を行っている	○  下剤を服用している方も、排泄状況の確認や血液検査をしながら、下剤服用の継続や中止について医師に相談している
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きと入れ歯の手入れを、一人ひとりの力に応じて支援し、夜間は入れ歯の消毒を行わない口腔内の清潔保持に努め、必要時は歯科受診している	
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の助言や、料理本を参考にしながら栄養バランスのとれた食事を工夫し、食事の際は発声練習を取り入れ、一人ひとりの咀嚼状態に合わせた形態で、習慣や栄養状態や身体機能に応じた支援を行い、水分は十分摂れるようにチェック表で確認しながらすすめている	○  水分や食事量に気を配りながらも、食べる楽しみを第一と考えている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ・ノロウイルス・0-157・疥癬結核・MRSA・肝炎等の予防や対応のマニュアルがあり、法人内に設置された感染症委員会とも連携しながら、流行時にはマニュアルに添って予防策を実行し、手洗い・うがいについては年間を通して実行している	○	予防の大切さを理解した上で、馴染みの生活がなるべく継続できる方法も考えていく
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・布巾・包丁等は毎日消毒し、食材は毎日新鮮なものを必要量購入し、購入後は迅速に適切な場所に保管し、余った食材もなるべく早く使いきるようにしている		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外からの見通しがよく、玄関周りや門の外にベンチや季節の花を置き、気軽に立ち寄り、話ができるような雰囲気作りに努めている		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井も高く開放感があり、自然な光が差し込み、不快な音もなく、季節が感じられるような展示を工夫し、濡れ縁よりながめられる外の景色を楽しんでもらいながら、居心地よく生活できるように配慮している		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に、ソファ・ベンチ・掘りゴタツなどを置き、気の合った入居者同士で過ごせたり、独りになれたり、思い思いに過ごせる居場所がある		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	入居者の状態に合わせた空間の中にも、その人らしさがどこかに現れるような居室にしていきたい
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	入居者の身体機能の低下や維持に役立つ工夫は、今後も考えていきたい
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	今後更に理解力が低下してくる入居者に合わせて混乱なく暮らせる工夫を考えていきたい
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「食」を通して陽だまりらしさをアピールしてきましたが、最近は少し変わってきました。それは・・・「食べる」ということが当たり前の行動としてできなくなりつつある方がいるからです。もちろん、それは食べるという行動だけにとどまらず、あらゆる行動に現われています。それに輪をかけ体力も低下し、入居当時に比べて行動範囲が狭くなってきた方や、話すことが少なくなってしまった方など数え上げたらきりがありません。・・・だからと言って私たちは・・・相変わらず、チラシ片手にメニューを決めて、安売り目当てに買物行って、すったもんだで料理をして、いろいろあるけど何とか食べて、いやいやながら後片付けをして、を毎日やっています。歩きたくないけど外に行けばニコニコ顔で、歩けなくても車椅子に乗って町内一周できるし、「散歩の日」は掃除さぼって、料理手抜きで、ひたすら外を目指していざ出発！！行事にかこつけ、何とか料理しないで済むように「ねえ、たまには外で食べたいよね。」なんて。考えようによっては、とってもサボりたがりの私たちですが・・・でも、私たちのモットーは、“できないことがあったって、できることが一つあればいいじゃないか”で、ご飯が上手く食べられなくても、甘いものならペロリといけるし、掃除が上手くできなくても、じゃがいもの皮むきなら天下一品、包丁は握れなくても、もやしのヒゲとりなら任せておいて！誰にだってアピールできることはあるものです。あれ、やっぱり「食」につながってしまいましたね。人間食べられるうちが花さ～、っというわけで、大変な日々でも、好きな物を食べる時の笑顔がある限り、私たちは知恵を出し合い、その時にできることを精一杯考え、陽だまりらしく、いつも笑顔で、明るく元気に生きているのです(^.^)